

## 第2節 大学院教育

### 1. 履修コースの概要

本研究科は、「総合教育科学専攻」と「教育設計評価専攻」の2専攻から成り立っている。総合教育科学専攻は、「人間形成論」、「教育政策科学」、「成人継続教育論」、「教授学習科学」、「人間発達」、「臨床心理」の6研究コース、教育設計評価専攻は「教育設計評価」研究コースから成り立っている。それぞれの研究コースにおける担当講座は以下のとおりである。

専攻別各研究コースにおける担当講座

専攻名	研究コース名	担当講座名
総合教育科学	人間形成論	人間形成論
	教育政策科学	教育政策科学
	成人継続教育論	成人継続教育論
	教授学習科学	教授学習科学
	人間発達	人間発達臨床科学
	臨床心理	
教育設計評価	教育設計評価	教育設計評価

#### (1) 教育学研究科の理念

##### 教育理念

東北大学大学院教育学研究科は、教育に関する理論的基礎に支えられた高度な専門的知識と技能を備え、社会的要請を敏感に察知するとともに、自ら問題を発見し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる人材を養成します。

##### 教育目標

前期2年の課程では、教育に関する専門的知識と技能を有する高度専門職業人、及び後期課程に進学し研究者を志す人材の養成を目標とします。

後期3年の課程では、教育に関する専門的領域の研究者を目指し、教育学の新たな発展に貢献できる、博士の学位を持つ人材の養成を目標とします。

##### アドミッション・ポリシー

東北大学大学院教育学研究科は、教育に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える理論的基礎を有し、社会的ニーズを敏感に察知するとともに、自ら問題を発見し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる研究者、高度職業人の養成を目指します。このため、各専攻とも学生の受け入れにあたっては、一般選抜と社会人特別選抜の枠を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているかを重視して選抜を行います。

##### <総合教育科学専攻>

総合教育科学専攻は、理論的基礎に支えられた専門的知識と技能をもって社会に貢献しうる高度専門職業人、さらには、教育科学の新たな発展に貢献する研究者を志す人材を求めます。

博士課程前期2年の課程の一般選抜試験では、専門的知識、外国語文献の読解力、それに研究計画および研究意欲等を評価します。博士課程後期3年の課程の一般選抜試験では、専門分野にかかる外国語文献の読解力、参考論文の内容、それに研究計画等を評価します。

博士課程前期2年の課程の社会人特別選抜試験では、論理的思考力および文章表現力、研究計画と研究意欲等を評価します（臨床心理研究コースでは専門知識についても評価します）。博士課程後期3年の課程の社会人特別選抜試験では、参考論文の内容、研究計画等について評価

します（成人継続教育論研究コースでは外国語文献の読解力についても評価します）。

#### ＜教育設計評価専攻＞

教育設計評価専攻は、学校における教育課程の設計・評価・改善等の実践的体験を通しての知識・技能の修得に加え、教育設計評価に関する教育及び研究を通して、実践的資質を備えた高度教育専門職や研究職に携わる人材の養成を目指します。このため、出身学部の文系・理系を問わず幅広い専門領域から人材を求めます。特に社会人特別選抜試験では、現職教員や教育行政関連職員、教育に関する高度な専門的知識及び技能をもつ専門職業人等、教育専門職としてのスキルアップを目指す現職教員を積極的に受け入れます。

博士課程前期2年の課程の一般選抜試験では、論理的思考力・データ分析力・表現力、及び英語文献の読解力を評価します。また志望動機と研究に対する姿勢、研究計画等を評価します。博士課程後期3年の課程の一般選抜試験では、専門分野に関する外国語（英語）の読解力、また参考論文の内容、研究計画等を評価します。

博士課程前期2年の課程の社会人特別選抜試験では、論理的思考力および文章表現力、研究計画と研究意欲等を評価します。博士課程後期3年の課程の社会人特別選抜試験では、参考論文の内容とともに研究計画等について評価します。

### （2）博士課程前期

博士課程前期の1年次には、主として授業に専念することとなる。総合教育科学専攻では、講義や演習、実験・実習を通して研究テーマの絞り込みを行う。教育設計評価専攻では、講義や演習の他にワークショップ等の授業を通して実践的課題に取り組むこととなる。両専攻ともに指導教員・副指導教員の複数体制できめ細やかな研究指導を行っている。1年次の1月には研究の成果を「課題研究論文（総合教育科学専攻）」、「実践課題研究論文（教育設計評価専攻）」としてまとめ提出することとなる。それらの論文について2月に論文審査を実施している。

博士課程前期の2年次は、修士論文の作成に重点が置かれる。論文作成に向けては、研究科としての公式な発表会以外に、各コースで独自に中間発表会を設ける（総合教育科学専攻）、合同研究演習等を設ける（教育設計評価専攻）などにより、論文の作成を段階的に進められるように指導を行っている。2年次の6月には修士論文題目の提出、1月には修士論文の提出、2月には修士論文審査および最終試験、そして3月には修了判定・修士学位授与というスケジュールとなっている。

### （3）博士課程後期

博士課程後期の1年次、2年次は「特定研究論文Ⅰ（1年次）」、「特定研究論文Ⅱ（2年次）」の発表・審査に向けて研究を進めることとなる。博士後期課程においても、指導教員・副指導教員の複数体制できめ細やかな研究指導を行っている。各特定研究論文は1月に提出を行い、2月に公開発表会および論文審査が行われる。

博士課程後期の3年次では、1、2年次に特定研究論文の単位を修得した上で「博士論文執筆計画書」を提出し、審査を受けて「博士論文執筆資格」を取得する。資格取得以降、指導教員・副指導教員にだけでなく、研究科内外の複数の研究者が関わり、博士論文執筆までの指導・助言を行っている。論文提出に向けては、4月に博士論文執筆計画書の提出と資格審査、2月に博士学位論文の提出、3月に教授会による学位認定を経て博士学位授与というスケジュールとなっている。

#### (4) 教員一人当たりの論文指導平均担当数

教員一人当たりにおける、論文指導の平均担当数を以下に示す。

##### 教員一人当たりの論文指導平均担当数

2015年度(平成27年度)							
研究コース	人間形成論	教育政策科学	成人継続教育論	教授学習科学	人間発達	臨床心理	教育設計評価
指導担当教員数	4人	4人	4人	3人	5人	5人	5人
修士論文	0.75	0.5	1	0.33	1.4	2.2	0.4
博士論文	0.5	1.75	1.75	0.33	0.8	2.8	2.2

2016年度(平成28年度)							
研究コース	人間形成論	教育政策科学	成人継続教育論	教授学習科学	人間発達	臨床心理	教育設計評価
指導担当教員数	4人	4人	4人	3人	4人	5人	5人
修士論文	1.5	0.75	0.5	1.33	1	3	0.4
博士論文	1	1.25	1.5	0.67	1	1.8	1.6

2017年度(平成29年度)							
研究コース	人間形成論	教育政策科学	成人継続教育論	教授学習科学	人間発達	臨床心理	教育設計評価
指導担当教員数	4人	4人	4人	3人	4人	5人	5人
修士論文	2	1.25	0.5	0.33	1	3.2	0.4
博士論文	1	0.5	2.25	0.67	0.75	0.2	1.4

## 2. 研究支援体制の強化

教育学研究科では、大学院生の研究活動を促進するために、大学院生プロジェクト型共同研究支援事業、「博士研究員制度」、「博士論文公開発表会」、「海外発表渡航費支援事業」などを行っている。

### (1) 大学院生プロジェクト型共同研究支援事業

大学院生プロジェクト型共同研究支援事業は、「大学院生が共同で研究を企画・実施・報告することにより研究者あるいは高度専門職業人として求められる広い視野を身に付け、研究能力を総合的に高める機会を提供する」ことを目的とし、研究課題につき上限 20 万円の研究補助金を与えるものである。採択された研究課題については、研究成果報告会での報告および成果報告書の提出が義務づけられる。なお、研究成果報告会での発表資料は英文にて作成し、報告書は英文および和文にて作成することとなっている。2015、2016、2017 年度の採択課題は以下のとおりである。

大学院生プロジェクト型研究採択課題一覧

2015年度（平成27年度）		
研究代表者	研究組織	研究課題
王晓		中学生の過剰適応に関する日中比較 —ソーシャルサポートの受領と期待に注目して—
下瀬川陽		学校中退は職業生活における不平等をもたらすか？
齋藤貴弘		高等学校における定期テストの品質向上に関する研究

2016年度（平成28年度）		
研究代表者	研究組織	研究課題
松崎泰		グローバル型大学に在籍する大学生・大学院生における テキスト理解の促進要因 —音読流暢性、要素的認知機能との関連から—
王晓		中学生における対象別評価懸念と過剰適応との関連について —日本と中国の比較を通して—
嘉門良亮		スポーツによる地域開発と地域住民の生活再編に関する 社会学的研究 —地域的共同性と『ローカル』スポーツ化の実践—
小林大介	安藤 樹	青年期のカップル間における情報量の差と攻撃行動に関する研究
	斎藤 昭宏	
	関口 溪人	
	進藤 果林	

2017年度（平成29年度）		
研究代表者	研究組織	研究課題
呉書雅		日本学生支援機構奨学金受給が学生の支出行動に与える 影響 —傾向スコア・マッチングによる検証—
川田拓	中島 栄之助	リアルタイム授業評価システムの妥当性検証 —経験年数と情報量が授業評価に影響を与える要因の検討—
坂本佑太郎		テストデータ分析における bi-factor モデルの応用可能性 について
山本信		幼児期における情動表出の制御の発達に関する研究 —行動指標と生理指標を用いた測定法に関する探索的検討—

## (2) 博士研究員制度

博士研究員は、教育学研究科の博士課程3年の課程を修了した者を対象に研究者としての地位を保障する制度である。博士研究員は、授業料を払わずに本学の施設・設備の使用、指導教員による指導を受けることができ、さらに本学の研究者としてさまざまな研究費に独自に応募することができる。

2015、2016、2017年度の博士研究員および研究課題は以下のとおりである。

### 博士研究員一覧

氏名	研究課題名
2015年度（平成27年度）	
齊藤仁一朗	アメリカ中等教育の大衆化過程におけるシティズンシップ教育の変容
李 熙馥	夫婦間ストレス場面における関係焦点型コーピング効果の検討：収束効果と予防効果に注目して
2016年度（平成28年度）	
三道なぎさ	抑うつ者を含む重要な二者関係における言語コミュニケーションに関する研究
竹ヶ原 靖子	相談行動における援助要請者と援助者の相互作用に関する研究
張 新荷	夫婦間葛藤下における青年期の子どもの精神的健康についての質的研究
渡邊 祐子	美術館教育における来館者の学びのプロセスに関する研究
南 紅玉	国際結婚した女性の社会参加における主体性と学習
小野寺 香	アジアにおける国際教育プログラムの導入と質保証に関する研究
2017年度（平成29年度）	
寺川 直樹	ヘルダーの人間形成論における「認識」の役割
兪 憬蘭	中年期夫婦の夫婦間葛藤プロセスに関する日韓比較研究
王 暁	中国の中学生における過剰適応に関する研究
佐藤 悦子	在日外国人の人間形成に関する文化人類学的研究
竹ヶ原 靖子	援助要請のポジティブな効果に関する心理学的研究
三道 なぎさ	うつ病者を抱える家族を対象とした支援プログラムの開発と効果の検討
白幡 真紀	イギリスのキャリア教育・ガイダンスに対する公的支援に関する研究

## (3) 博士論文公開發表会

博士論文公開發表会は、本研究科で博士学位を取得した大学院生が博士論文の内容および論文執筆課程について、在学中の大学院生に対し講演を行うものである。発表会は4月の

新入生オリエンテーションに合わせて実施される。2015、2016、2017 年度の講演内容は以下のとおりである。

発表者	所属コース	博士論文題目
2015 年度(平成 27 年度)		
斉藤 仁一朗	教授学習科学研究 コース	20 世紀初頭アメリカのシティズンシップ教育の変容 –子どもの多様性に対応するカリキュラムの視点から–
2016 年度(平成 28 年度)		
張 新荷	臨床心理研究 コース	夫婦間顕在的葛藤が青年期の子どもの精神的健康に及ぼす影響に関する研究 –日本と中国の比較を通して–
2017 年度(平成 29 年度)		
寺川 直樹	人間形成論コース	ヘルダーの人間形成論 –その人間観・宗教観・自然観に定位して–

#### (4) 海外発表渡航費支援事業

海外発表渡航費支援事業は、外国の大学や研究機関等において学会・シンポジウムでの研究発表を行う場合に、そのための渡航費用を援助し、国際的な研究活動を促進することを目的とするものである。この事業は、東北大学教育学部同窓会より教育学研究科に拠出された基金により行われている。採択者数は年間 3 名程度、往復渡航費相当分の半額（1 名に 7 万円を上限とする）を支給する。2015、2016、2017 年度の採択者は以下のとおりである。

#### 海外発表渡航費支援事業採択者一覧

氏名	所属コース	学会名
2015 年度 (平成 27 年度)		
王 暁	臨床心理	中学生の過剰適応に関する日中比較研究
2016 年度 (平成 28 年度)		
申請者なし		
2017 年度 (平成 29 年度)		
松本 恵美	人間発達	児童期・青年期における仲間関係の排他性に関する研究 –対人受容性と仲間集団の閉鎖性に着目して–
浅沼 千恵	人間形成論	近代中国における学校運動会の展開Ⅱ –清末民初の中国における女学校運動会–

### 3. 大学院生の研究成果

「大学院生の著書」、「大学院生の論文一覧」（海外発表含む）、「大学院生の口頭発表一覧」（海外発表含む）

#### (1) 大学院生の著書(講座別)

※指導教員の報告による

<b>人間形成論講座</b>
寺川直樹、「人間形成論の開花—ヘルダーの人間性形成思想—」（笹田博通編著『教育的思考の歩み』ナカニシヤ出版、39-54頁）：2015年11月（分担執筆）
盛下真優子、「調和の時代における人間形成—M.シェーラーの形成観—」（笹田博通編著『教育的思考の歩み』ナカニシヤ出版、151-166頁）：2015年11月（分担執筆）
寺川直樹、「教育する人の資質・能力」（木山徹哉・太田光洋編著『教育原論—保育・教育を考える6つの視点—』ミネルヴァ書房、133-149頁）：2016年9月（分担執筆）
澤邊裕子、（宮城学院女子大学編『食の泉—世界の恵みを味わって』河北新報出版センター、14-19頁）：2016年11月（分担執筆）
寺川直樹、「小学校教師の仕事」（木山徹哉・太田光洋編著『教職論—保育者・教師の仕事をつかむ』ミネルヴァ書房、45-62頁）：2017年3月（分担執筆）
<b>教育政策科学講座</b>
神林寿幸、『公立小・中学校教員の業務負担』大学教育出版：2017年12月（単著）
<b>成人継続教育論講座</b>
中島康晴、『地域包括ケアから社会変革への道程—ソーシャルワーカーによるソーシャルアクションの実践形態—【理論編】』批評社：2017年5月（単著）
中島康晴、『地域包括ケアから社会変革への道程—ソーシャルワーカーによるソーシャルアクションの実践形態—【実践編】』批評社：2017年6月（単著）
<b>人間発達臨床科学講座</b>
板倉憲政・小林智・佐藤克彦・椎野睦・野口修司・森川友晴・森川夏乃・横谷健二、（狐塚貴博・若島孔文（編著）『解決の物語から学ぶブリーフセラピーのエッセンス ケースフォーミュレーションとしての物語』遠見書房）：2016年（共著）
三道なぎさ・張新荷・栗田康史・山形千遥・牧田理沙・富永紀子・若島孔文・長谷川啓三、『大震災からのこころの回復 リサーチ・シックスとPTG（リサーチ6 震災スピリチュアリティ）』新曜社、248-264頁：2015年8月（共著）
吉川一義、『子どものリハビリテーション医学（第3判）』医学書院、15-19頁：2017年12月（共著）
八島猛、「『特別支援教育』における『21世紀を生き抜くための能力』の『思考力』を育成する教育実践—『病弱教育臨床実習』の授業実践を例に—」（上越教育大学編『「思考力」が育つ教員養成—上越教育大学からの提言3—』上越教育大学出版会、269-272頁）：2018年1月（編著）
八島猛、「『特別支援教育』における『21世紀を生き抜くための能力』の『実践力』を育成する教育実践—『病弱教育臨床実習』の授業実践を例に—」（上越教育大学編『「実践力」が育つ教員養成—上越教育大学からの提言4—』上越教育大学出版会、239-242頁）：2018年3月（編著）
<b>教育設計評価講座</b>
井場麻美、『日本とモンゴルにおける、教育の国際化に関する考察』（アジア研究報告シリーズ）風響社：2015年8月（編著）

(2) 大学院生の論文(講座別)

※指導教員の報告による

人間形成論講座
盛下真優子、「M.シェラーの道徳的人間形成論—典型論を中心として—」『東北大学教育学研究科研究年報』第64集第1号、1-17頁：2015年12月【査読無】
盛下真優子、「M.シェラーにおける愛の概念—その人間形成論的考察—」『教育思想』第43号、105-121頁：2016年3月【査読有】
澤邊裕子、「韓国の中高等教育機関における日本語教育の意味：教師のライフストーリーからの考察」『宮城学院女子大学研究論文集』第122巻、103-124頁：2016年6月【査読有】
澤邊裕子、「日本と韓国の高등학교における隣国語教育の理念の接点：韓国・朝鮮語／日本語教育の指針と教師の語りからの考察」『日本文学ノート』第51巻、23-44頁：2016年7月【査読無】
寺川直樹、「ヘルダーのフマニテート思想に関する一考察—その世界観ならびに人間観との関係から」日本ヘルダー学会『ヘルダー研究』第21号、37-69頁：2016年8月【査読有】
寺川直樹、「ヘルダーの『道徳的形成』思想」仙台ゲーテ自然学研究会『プロテウス—自然と形成—』第17号、17-33頁：2016年8月【査読有】
盛下真優子、「知と人間形成：M.シェラーの知識社会学における人間形成論的考察」東北教育哲学教育史学会『教育思想』第44号、55-70頁：2017年3月【査読有】
澤邊裕子、「日韓の中高等教育段階における韓国・朝鮮語教育と日本語教育の比較考察：教師へのインタビュー調査に基づいて」『人文社会科学論叢』第26巻、47-58頁：2017年3月【査読有】
浅沼千恵、「清末期の中央教育会と軍国民教育」『教育思想』第44巻、71頁-85頁：2017年3月【査読有】
澤邊裕子、「日本と韓国の学生をつなぐ授業を創る教師のアイデンティティ：隣国の言語を教える教師の授業事例と語りの分析から」『複言語・多言語教育研究』第5巻、20-36頁：2018年3月【査読有】
盛下真優子、「他者との共同感情を通じた調和—その限界と可能性—」東北教育哲学教育史学会『教育思想』第45号、83-101頁：2018年3月【査読有】
浅沼千恵、「明治末日本における中国教育に関する言説：『教育時論』と辻武雄を中心に」『教育思想』第45巻、103頁-117頁：2018年3月【査読有】
石井大輝、「明治期宮城県における教導職」『教育思想』第45巻、119-134頁：2018年3月【査読有】
浅沼千恵、「清末民初の中国社会における女学校運動会」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第66集第2号、17-37頁：2018年6月【査読無】
教育政策科学講座
青木栄一・廣谷貴明、「専門スタッフとの連携をどうするか」『教職研修』第44巻第6号、25-28頁：2016年【査読無】
青木栄一・大石亜美・廣谷貴明、「企業調査による教育CSRの実態把握—教育活動から教育政策へ展開する主体の多様化—」『東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報』第16号、1-13頁：2016年【査読無】
青木栄一・廣谷貴明・神林寿幸、「学校統廃合の規定要因—固定効果モデルを用いた全国市区のパネル・データ分析—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第64集第2号19-35頁：2016年6月【査読無】
廣谷貴明・青木栄一、「地域住民の学校統廃合への移行の規定要因」『Eco-Forum』第31巻第4号、30-35頁：2016年8月【査読無】
青木栄一・廣谷貴明、「チーム(としての)学校の政策過程がもたらしたインパクト」『教育制度学研究』第23号、162-169頁：2016年11月【査読無】
神林寿幸、「アンケート調査に見る教員の働き方と生活の実情」『とりもどせ！教職員の「生活時間」—日本における教職員の働き方・労働時間の実態に関する研究委員会報告書』、21-141頁：2016年12月【査読無】

廣谷貴明・青木栄一、「市民調査の分析(UK)」『「行政改革のインパクトとポストNPMへの展開に関する総合的研究」成果報告書』、102-122頁：2017年3月【査読無】

廣谷貴明・青木栄一、「政策課題に対する地域住民の意向の規定要因分析—学校統廃合を事例として—」『「行政改革のインパクトとポストNPMへの展開に関する総合的研究」成果報告書』、197-215頁：2017年3月【査読無】

呉書雅・島一則、「大学進学による期待便益と教育投資・奨学金認知に関する基礎分析」『家庭の経済状況・社会状況に関する実態把握・分析及び学生等への経済的支援の在り方に関する調査研究報告書』、96-109頁：2017年3月【査読無】

青木栄一・廣谷貴明、「教員勤務実態調査の概要と『チームとしての学校』への期待」『学校事務』第68巻第9号、46-49頁：2017年9月【査読無】

廣谷貴明、「学校運営管理費の推計—神奈川県横浜市を事例として—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第66集第1号、1-16頁：2017年12月【査読無】

島一則・原田健太郎・西村君平・呉書雅・真鍋亮、「大学教育の経済的効果に関する実証的研究—複数大学によるネットワーク型IR研究による教育の生産性向上を目指して—」『国際共同研究推進事業「大学における教育研究の生産性向上に関する国際共同研究」ディスカッションペーパーシリーズ』No.10、1-31頁：2018年2月【査読無】

呉書雅・小林雅之・濱中義隆、「経済的理由で進学が困難な潜在的進学者数の推定に関する調査研究」『平成29年度教育改革の総合的推進に関する調査研究—教育投資の効果分析に関する調査研究—調査報告書』、70-97頁：2018年3月【査読無】

呉書雅・小林雅之・濱中義隆、「経済的な理由による中退者抑制数の推定に関する研究」『平成29年度教育改革の総合的推進に関する調査研究—教育投資の効果分析に関する調査研究—調査報告書』、98-113頁：2018年3月【査読無】

島一則・原田健太郎・西村君平・呉書雅・真鍋亮、「地方私立大学における大学教育の経済的投資効果の検証—偏差値45未満の大学に着目して—」『私立大学の課題と展望—私学財政・国際交流・認証評価を中心に—』、29-61頁：2018年3月【査読無】

呉書雅、「経済的理由で進学が困難な潜在的進学者・高等教育機関進学者数の男女別推計」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第66集第2号、77-95頁：2018年6月【査読無】

#### 成人継続教育論講座

高橋満・崔敏奎、「高齢者の自主活動と地域づくり—『つるがや元気会』の事例を通して—」日本社会教育学会・韓国平生教育学会『地域づくりと社会教育』第7号、183-190頁(韓国語)／191-198頁(日本語)：2015年【査読有】

崔敏奎、「高齢者の自主活動グループへの参加と包摂のプロセス」日本社会教育学会・韓国平生教育学会『東アジアにおける社会教育・平生教育の創造と新たな展開』第8号、147-157頁(日本語)／158-168頁(韓国語)：2016年【査読有】

飯島絵理、「女性の学習と起業—男女共同参画センターにおける女性の起業支援の今日的意義—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第64集第2号、37-53頁：2016年6月【査読無】

MinGyu Choi, Community Participation and Health Promotion for Senior Citizens, *Advances in Social Science, Education and Humanities Research (ASSEHR)*, 88, Atlantis Press, pp.77-82, 2017【査読有】

崔敏奎、「高齢者の健康づくりにおける自主活動と学び」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第66集第1号、93-116頁：2017年【査読有】

飯島絵理、「『女性の活躍推進』と『男女共同参画の視点』」国立女性教育会館編『NWEC実践研究』第7号、149-164頁：2017年2月【査読無】

飯島絵理、「若年無業女性への支援と社会教育—公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会の事例をもとに—」日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』（『日本の社会教育』第61集）、189-198頁：2017年9月【査読有】

飯島絵理、「女性の起業と経済的エンパワーメントのプロセス」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第66集第1号、59-77頁：2017年12月【査読無】

中島康晴、「状況的学習論を意図した『出逢い直し』による地域変革のすすめ—実践を地域に『ひらく』ことで生じる相互アイデンティティの変容—」『ソーシャルワーク

研究』Vol.43No.4：2018年1月【査読有】

飯島絵理、「地方創生と男女共同参画の推進—漁村女性の現状と支援を中心に」国立女性教育会館編『NWEC 実践研究』第8号、43-64頁：2018年2月【査読無】

南紅玉、槇石多希子『地域社会への参加と「生活に埋め込まれた学習」：「国際結婚」をした外国人女性の定住過程』「仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要」10号 59-75頁、2015年5月

#### 教授学習科学講座

Oie, Mayumi, Educational instruction in a mathematics class for elementary school children with autism and emotional disorders: The method of instruction for multiplication with calculation writing computation on paper, *International Journal of Education and Research*, 4(11), pp.331-340, 2016-12【査読有】

Oie, Mayumi & Tsutomu Fujii, Development of mathematics motivation across the transition from elementary to junior high school in Japan, *Psychology*, 8(2), pp.287-301, 2017-1【査読有】

Oie, Mayumi & Tsutomu Fujii, Development of children's self-esteem at the elementary school and school adjustment, *Hitotsubashi review of arts and sciences*, 11, pp.20-36, 2017-3【査読無】

下島裕美・大家まゆみ・藤井勉、「DSM-5の診断基準改定と教職課程における特別支援教育」『杏林大学教職課程』第3巻、57-64頁：2017年3月【査読有】

下島裕美・大家まゆみ、「情緒固定学級（自閉症・情緒障害）の発達障害児の教育的支援—具体物を用いてくり上がりのあるたしざんを指導する—」『杏林大学教職課程』第3巻、65-74頁：2017年3月【査読有】

下島裕美・大家まゆみ・飯高晶子、「児童のソーシャル・スキルを育む道徳の指導法—教職実践演習で学ぶ学校・保護者・地域と大学の連携—」『杏林大学教職課程』第3巻、75-82頁：2017年3月【査読有】

下島裕美・大家まゆみ・飯高晶子、「地域で取り組むインクルーシブ教育—自尊感情をはぐくむには—」『平成28年度杏林大学杏林 CCRC 研究所紀要』、14-22頁：2017年3月【査読無】

下島裕美・有馬明恵・大家まゆみ、「教職実践演習（養護教諭）における『発達障害と母国語や貧困の問題等による特別の教育的ニーズ』に関する大学生の視点」『杏林教職課程年報』第4号、17-25頁：2017年10月【査読有】

Oie, M., The role of motivation and creativity in sustaining volunteerism of citizenship for positive youth development after the Great East Japan Earthquake, *Higher Education Studies*, 7(4), pp.61-70, 2017-11【査読有】

Gajda, A. & Oie, M., Between individualism and collectivism: perception and profiles of creativity in Poland and Japan, *Creativity: Theories - Research - Applications*, 4(2), pp.198-217, 2017-12【査読有】

下島裕美・大家まゆみ・稲垣勉、「男女共同参画社会を実現する大学のキャリア教育—ワールド・カフェによる大学生の“主体的・対話的で深い学び”を育む試み—」『教職・学芸員課程研究』創刊号、13-23頁：2018年2月【査読有】

大家まゆみ、「教職に就く：女性教員のワーク・ライフ・バランス」『宮城教育大学教職大学院研究室紀要』、114-121頁：2018年3月【査読無】

大家まゆみ、「『チーム学校』は『教員の専門性』の育成を支えうるか—国際教員指導環境調査（TALIS）と教員勤務実態調査をふまえて—」『教職・学芸員課程研究』創刊号、1-12頁：2018年3月【査読有】

#### 人間発達臨床科学講座

阿部美穂子・川住隆一、「重度・重複障害のある子どものきょうだいとその家族のための支援プログラム開発に関する実践的研究」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第63集第2号、141-166頁：2015年6月【査読無】

永瀬開・田中真理・川住隆一、「自閉症スペクトラム障害者のユーモア体験に関する研究動向—ユーモア体験を喚起させる認知処理過程の視点から—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第63集第2号、167-181頁：2015年6月【査読無】

永瀬開・田中真理、「自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験の認知処理特

性—分かりやすさの認知と刺激の精緻化の影響— 『発達心理学研究』第26巻第2号、123-134頁：2015年6月【査読有】

阿部美穂子、「障害のある子どものきょうだいのための障害理解支援プログラムに関する実践的研究—ポートフォリオ絵本の制作活動を通して—」 『発達障害研究』第37巻第3号、233-246頁：2015年8月【査読有】

川村綾、及川恵、「認知的統制の媒介による行動的対処と抑うつとの関連」 『パーソナリティ研究』第24巻第2号、155-158頁：2015年12月【査読有】

阿部美穂子、「家族参加型ムーブメント活動が障害のある子どものきょうだいにもたらす効果—親ときょうだいへのアンケート調査から—」 『北海道教育大学釧路校研究紀要「釧路論集」』第47号、119-130頁：2015年12月【査読無】

阿部美穂子、「気になる子どもの変容を促す問題解決志向性コンサルテーションの効果に関する実践的研究—『行動の分析&支援シート』の開発と活用—」 『保育学研究』第53巻第2号、52-63頁：2015年12月【査読有】

阿部美穂子、「障害のある子どものきょうだいと保護者の関係性支援に関する実践的研究—ポートフォリオ『家族の紹介ブック』創作活動を通して—」 『家族心理学研究』第29巻第2号、85-98頁：2015年12月【査読有】

松崎泰・川住隆一・田中真理、「思春期・青年期の自閉スペクトラム症者における共感の特性—対人恐怖心性と、恐怖を抱く人物への自己注視的認知過程のとりやすさとの関連—」 『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第64集第1号、75-90頁：2015年12月【査読無】

王暁、「中学生の過剰適応とストレスモデル諸要因の関係に関する日中比較研究」 『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第64集第1号、135-149頁：2015年12月【査読無】

Takagi, G., Wakashima, K., Sato, K., Ikuta, M., Hanada, R., and Smock, S., The Development of Solution Building Inventory Japanese version: Validation of the SBI-J., *International Journal of Brief Therapy & Family Science*, 5(1), National Foundation of Brief Therapy, pp.19-25, 2015【査読有】

若島孔文・板倉憲政・張新荷、「仮設支援の現在」 『心理臨床の広場』第7巻第2号、38-39頁：2015年【査読無】

Kyungran YU, A Study on Korean Married Couples' Conflict Resolution Strategies and Family Structure, *International Journal of Brief Therapy and Family Science*, 5(1), pp.1-18, 2015【査読有】

阿部美穂子、「学ぶ楽しさを生み出す授業づくりに生かす個別の指導計画」 『肢体不自由教育』224、10-15頁：2016年3月【査読無（依頼）】

松崎泰・川住隆一・田中真理、「思春期・青年期の自閉スペクトラム症者における共感の特性：自己注視的・他者注視的認知過程に焦点を当てて」 『発達心理学研究』第27巻1号、1-9頁：2016年3月【査読有】

王暁、「中学生の過剰適応に関する日中比較—ソーシャルサポートの受領と期待に注目して—」 『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第64集第2号、115-118頁：2016年3月【査読無】

鎌田有沙、「大学生の子どもの自立に対する母親の意識に関する研究」 『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』14、91-108頁：2016年3月【査読無】

八嶋玲央、「大学生におけるユーモアスタイルに関する検討—社会的スキル、友人関係満足感との関連から—」 『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』14、153-167頁：2016年3月【査読無】

高木源、「SFBT ワークシートの作成—短期的効果の検討—」 『臨床心理相談室紀要』14、139-152頁：2016年【査読無】

若島孔文・高木源・平泉拓・佐藤宏平・生田倫子・長谷川啓三・安保英勇、「包括的ストレス反応尺度の信頼性・妥当性の検討—大学生を対象として—」 『臨床心理相談室紀要』14、37-48頁：2016年【査読無】

小林智・若島孔文・平泉拓・三道なぎさ・張新荷・兪憬蘭・安藤樹・小林大介・清水優・高木源、「自死予防対策として始まる弁護士との連携について(II)」 『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』14、49-66頁：2016年【査読無】

吉川一義、「ICF から特別支援教育の積弊を再考する」『障害者問題研究』第 43 巻第 4 号、18-25 頁：2016 年 2 月【査読有】

山田憲一・東海林渉、「REPORT：国際糖尿病連合（IDF）世界会議（WDC）2015 報告記 糖尿病療養指導のパラダイムシフト：Flourishing Approach」『糖尿病専門新聞 DITN』458 号、5 頁：2016 年 5 月【査読無】

王暁、「過剰適応傾向とソーシャルサポートの関連性についての日中比較：サポート期待とサポート受領及び両者のズレに焦点を当てて」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 64 集第 2 号、141-156 頁：2016 年 6 月【査読無】

一條玲香、上埜高志、「結婚移住女性の異文化適応過程—子どものいない事例を通して—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 64 集第 2 号、87-104 頁：2016 年 6 月【査読無】

東海林渉・上田一気・長尾愛美・阿部幹佳・高橋葉子・佐久間篤・松岡洋夫・松本和紀、「調査研究報告（東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座）」『みやぎ心のケアセンター平成 27 年度紀要』第 4 号、105-115 頁：2016 年 9 月【査読無】

東海林渉・山田憲一、「Educators：糖尿病療養指導：Flourishing Approach の先にあるもの」『糖尿病専門新聞 DITN』462 号、4 頁：2016 年 9 月【査読無】

東海林渉・本庄谷奈央・松本和紀、「教員のメンタルヘルス支援スキル向上に向けて—高校と専門学校での試み—」『最新精神医学』第 21 巻第 6 号、467-474 頁：2016 年 11 月【査読無】

一條玲香、上埜高志、「日本・韓国・台湾における結婚移住女性のメンタルヘルスに関する研究動向」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 65 集第 1 号、47-70 頁：2016 年 12 月【査読無】

一條玲香『在住中国人女性の異文化適応における困難とサポート要因：日本人と結婚した中国人女性の PAC 分析を通して』「心理臨床学研究」33 巻 1 号 59-69 頁、2015 年 4 月【査読有】

一條玲香、上埜高志『外国人相談の傾向と心理的問題を抱える相談(2)全国の外国人相談から』「東北大学大学院教育学研究科研究年報」64 巻 1 号 117-133 頁、2015 年 12 月

一條玲香、上埜高志『結婚移住女性の異文化適応過程：子どものいない事例を通して』「東北大学大学院教育学研究科研究年報」64 巻 2 号 87-104 頁、2016 年 6 月

一條玲香、上埜高志『日本・韓国・台湾における結婚移住女性のメンタルヘルスに関する研究動向』「東北大学大学院教育学研究科研究年報」65 巻 1 号 47-70 頁、2016 年 12 月

大村昌枝、一條玲香『発表要旨(3) 激変する多文化社会の現状と課題—現場からの報告』「東北文化研究室紀要」58 号 22-23 頁、2017 年 3 月

田坂裕子・伊藤良子、「算数文章題に困難を示した児童の解決過程からみた経年変化—小学校 1 年時から 4 年時までの追跡調査より—」『臨床発達心理実践研究』第 11 巻第 2 号、126-134 頁：2016 年 12 月【査読有】

奥山滋樹・高木源・小林大介・坂本一真・若島孔文、「侵襲性尺度の開発の試み—信頼性・妥当性およびカットオフ値の検討—」『東北大学大学院教育学研究科年報』第 65 巻第 1 号、147-156 頁：2016 年【査読無】

高木源、「SFBT ワークシートの作成—短期的効果の検討—」『臨床心理相談室紀要』14、139-152 頁：2016 年【査読無】

高木源、若島孔文、小林大介、「不眠問題への解決志向短期療法—ホワイトボードを用いた解決に関する会話の導入—」『Interactional Mind IV(2016)』4、94-108 頁：2016 年【査読有】

若島孔文、高坂加世子、高木源、「離婚問題へのアプローチ—弁護士と心理士の連携による自死対策プロジェクト—」『Interactional Mind IV(2016)』4、109-122 頁：2016 年【査読有】

田坂裕子、「小学 3 年生と 5 年生における算数文章題解決過程」『立教女学院短期大学紀要』第 48 号、135-145 頁：2017 年 1 月【査読無】

王暁、「中学生における対象別評価懸念と過剰適応との関連について：日本と中国の比較を通して」『東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報』17、33-35 頁：2017 年 3 月【査読無】

東海林渉・安保英勇、「糖尿病患者と配偶者の食事療法における取り組みに及ぼす性別の影響と問題構造の検討：混合研究法を用いて」『ヒューマン・ケア研究』第17巻第2号、93-114頁：2017年3月【査読有】

小川舞美、藤川真由、岩城弘隆、北澤悠、柿坂庸介、神一敬、中里信和、上埜高志、「成人てんかん患者における病状説明と心理社会的要因の関連」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』15、25-38頁：2017年3月【査読無】

田坂裕子・伊藤啓子、「前言語期にとどまる知的障害幼児への個別音楽療法 その2—歌いかけによる相互交渉の変化—」『音楽療法研究』第6号、41-45頁：2017年3月【査読無】

若島孔文・平泉拓・萩臺美紀・小林智・三道なぎさ・川原碧・坂本一真・斎藤昭宏・進藤果林・安藤樹・小林大介・高木玄・清水優、「自死予防対策として始まる弁護士との連携について(Ⅲ)—2016年度の活動報告」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』第15巻、1-11頁：2017年3月【査読有】

八嶋玲央、「対人的ユーモア表出の類型化の試み」『東北大学大学院教育学研究科紀要』15、65-83頁：2017年3月【査読無】

千葉柝作、「ストレスフルな体験後の変化についての分類の試み」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』15、49-63頁：2017年4月【査読無】

八島猛、大庭重治、「青年初期における自己評価の発達と機能に関する縦断的研究」『育療』第62号、1-11頁：2017年11月【査読有】

若島孔文・坂本一真・萩臺美紀、「ミルトン・エリクソンのブリーフセラピー」『北樹出版』10巻、6-21頁：2017年11月【査読有】

Nihonmatsu, N., Okuno, M., & Wakashima, K., Effects of interpersonal relations on the cognition of self-deprecating humor, *Interactional Journal of Brief therapy and Family science*, 7(1), pp.3-12, 2017-12【査読有】

Nihonmatsu, N., Okuno, M., & Wakashima, K., A research for potential application of self-directed humor aimed at bullying prevention: With focusing on Aikido-humor as response to aggressive utterance, *Interactional Journal of Brief therapy and Family science*, 7(1), pp.13-26, 2017-12【査読有】

Kobayashi, D., Takagi, G. & Wakashima, K., Approach to a stomachache: The case of teenager was diagnosed with irritable bowel syndrome, *International Journal of Brief Therapy and Family Science*, 6(1), National Foundation of Brief Therapy, pp.11-20, 2017【査読有】

若島孔文・高木源・小林大介、「離婚によるうつを抱える女性の復職支援について」『精神療法』第43巻第2号、238-245頁：2017年【査読有】

高木源・若島孔文・小林大介、「不眠問題への解決志向短期療法—ホワイトボードを用いた解決に関する会話の導入—」日本ブリーフセラピー協会(編)『Interactional Mind IX』6、94-108頁：2017年【査読有】

坂本一真、「『いじり』行動の語用論的分類—『内容の側面』と『関係の側面』に着目して—」『臨床心理相談室紀要』15、1-11頁：2017年【査読無】

若島孔文・坂本一真・萩臺美紀、「ミルトン・エリクソンのブリーフセラピー」『Interactional MindX (2017)』10、7-21頁：2017年【査読有】

高木源・奥山滋樹・坂本一真・萩臺美紀、「大学生が抱える問題の実態—主観的評価、対処方略、自己効力感に着目して—」『臨床心理相談室紀要』第15巻、39-48頁：2017年【査読無】

藤村励子・郷右近歩・野口和人、「肢体不自由者に対する肢体不自由者に対する Microaggression に関する事例的検討—発話の有無の選択的調整に焦点を当てて—」『Journal of Inclusive Education』2、47-55頁：2017年【査読有】

田坂裕子、「極低出生体重児にみられた算数文章題解決の困難性—諸検査および諸要因からの検討—」『立教女学院短期大学紀要』第49号、101-124頁：2018年1月【査読無】

遠藤徳美・田中圭介・安保英勇、「認知の柔軟性及び省察と自己複雑性との関連」『上越教育大学心理教育相談研究』17：2018年3月【査読有】

澁木悠、「障害児・者のきょうだいとしての体験過程・進路・職業選択時期から進学・就職後に焦点をあてて」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』16、19-

37 頁：2018 年 3 月【査読無】

伊藤啓子・田坂裕子・白川ゆう子・松本直子、「前言語期にとどまる知的障害幼児への個別音楽療法 その 3」『音楽療法研究』7 号、13-16 頁：2018 年 3 月【査読無】

今野華奈、「障害を理由とする差別に関する文献検討」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』16、85-103 頁：2018 年 3 月【査読有】

富田悠斗、「日本における効果的な感謝介入技法の開発—感謝した・された経験の日記筆記に着目して—」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』第 16 巻、119-129 頁：2018 年【査読無】

若島孔文・小林智・平泉拓・高木源・三道なぎさ・小林大介・萩臺美紀・川原碧・坂本一真・塚越友子・二本松直人、「自死予防対策として始まる弁護士との連携について (IV) —2017 年度の活動報告—」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』16、1-11 頁：2018 年【査読無】

大友香奈、「家族介護者における認知症の捉え方と対応に関する研究—『ポジティブな側面』と『ネガティブな側面』に着目して—」『東北大学臨床心理相談室紀要』第 16 巻、69-84 頁：2018 年【査読無】

東明日香、「配偶者サポートへの期待とワーク・ファミリー・コンフリクトの関連および求めるサポート内容の検討」『東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要』第 16 巻、57-68 頁：2018 年 3 月【査読有】

#### 教育設計評価講座

池田和正、「実践的な教育研究経験の有無と高校教員の指導方法の特徴—PISA を背景にした『学びの学習力』との関連に注目して—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 64 集第 1 号、165-178 頁：2015 年 12 月【査読無】

井場麻美、「モンゴルの高等教育概要～学士課程を中心に・国際スタンダードへの対応～」『私立大学協会教育学術新聞』2630 号、11 面：2016 年 1 月【査読無】

齋藤貴弘、「学校教育における定期テストに関する研究の動向」『東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報』第 16 号、55-66 頁、2016 年 3 月【査読無】

齋藤貴弘、「学校教育における定期テストに関する研究の動向」『東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報』第 16 号、55-66 頁：2016 年 3 月【査読無】

井場麻美「モンゴルの教育事情について～国際スタンダードとの一致～」『JASSO ウェブマガジン「留学交流」』2016 年 4 月号、16 頁～20 頁：2016 年 4 月【査読無】

池田和正、「授業の指導方法に最も大きな影響を受けた研修先の特徴—県・市教育センターと教科研究会に注目して—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 64 集第 2 号：2016 年 6 月【査読無】

Masahiro Arimoto, Ian Clark, Saye Yamamoto, Masamitsu Shinkawa, "Cultural Perspectives on Classroom Assessment: A Path Toward the "Japanese Assessment for Learning Network" Annual Bulletin, Graduate School of Education, Tohoku University Vol.1, pp.41-62, 担当：p.51, p.53, p.54, p.56：2015 年 3 月【査読無】

山本佐江「算数の学習過程における評価の検討—秋田市算数授業事例による形成的アセスメントの具現化」『東北数学教育学会年報』46 号、30-42 頁：2015 年 4 月【査読有】

山本佐江「日本におけるフィードバック概念受容の検討」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 63 集第 2 号、297-314 頁：2015 年 6 月【査読無】

山本佐江；高橋あつ子「危機状況から脱した教職員の変容のプロセス」『学校教育相談研究』第 25 号、15-24 頁、担当 16-24 頁：2015 年 7 月【査読有】

山本佐江「入門期算数のカリキュラムの課題—授業観察アセスメントに基づく検討—」『実践研究 数学教育実践研究会紀要』27 号、2-15 頁：2015 年 8 月【査読有】

山本佐江「小学校入門期算数授業における教師のフィードバックの考察—有効ではない可能性についての検討」『臨床発達心理実践研究』第 10 巻第 2 号、161-170 頁：2015 年 9 月

山本佐江「算数の問題解決の授業における形成的フィードバックの有効性の検討—小学校入門期授業への主体的・能動的な子どもの参加」『日本教科教育学会誌』第 38 巻第

3号、13-24頁：2015年12月【査読有】

山本佐江；高橋あつ子「学校改善を促進するフィードバック・ループ-M・GTA データを用いた教職員の語りの分析」『日本学校心理士会年報』第9号、73-83頁、担当73-83頁：2017年3月：【査読有】

山本佐江「初年次フレッシュセミナー I A I B におけるルーブリックの活用」『帝京平成大学紀要』第28巻第1号、175-184頁：2017年3月【査読有】

山本佐江「英国 PSHE におけるアセスメントを参照した道徳評価のあり方」『帝京平成大学紀要』第28巻第2号、25-32頁：2017年3月【査読有】

人間形成論講座
寺川直樹、「ヘルダーの学校構想—その世界観および人間形成観との関連から—」東北教育哲学教育史学会第47回大会、東北大学、2015年9月
盛下真優子、「M.シェーラーにおける愛の概念—その人間形成論的考察—」東北教育哲学教育史学会第48回大会、東北大学、2015年9月
浅沼千恵、「近代中国における学校運動会の展開」教育史学会第59回大会、宮城教育大学、2015年9月
寺川直樹、「ヘルダーの人間形成論における自然と歴史の関係」教育哲学会第55回大会、奈良女子大学、2015年10月
盛下真優子、「M.シェーラーの人間形成論における他者の問題—『共同感情』の概念に着目して—」教育哲学会第58回大会、奈良女子大学、2015年10月
澤邊裕子、「高等学校の韓国語教育を支える基盤について：教師の語りからの考察」言語文化教育研究学会第二回年次大会、武蔵野美術大学、2016年3月
佐藤悦子、「被災地で『共同化』される漁業」日本文化人類学会、南山大学、2016年5月
浅沼千恵、「清末期の中央教育会と軍国民教育」東北教育哲学教育史学会、東北大学、2016年9月
浅沼千恵、「清末民初の中国社会における女学校運動会」教育史学会、横浜国立大学、2016年10月
澤邊裕子、「日本の韓国語朝鮮語教育と韓国の日本語教育の連携による交流学习の可能性」JACTFL 第五回シンポジウム、上智大学、2017年3月
上之郷奈穂、「相撲部屋の地方土俵と後援に関する考察」東北教育哲学教育史学会、東北大学、2017年9月
小西賢、「過疎地の歩みとそのゆくえ」東北教育哲学教育史学会、東北大学、2017年9月
張奇、「『学区房』から見る中国の義務教育の格差化—北京市の学校入学事情—」東北教育哲学教育史学会、東北大学、2017年9月
浅沼千恵、「『教育時論』からみる明治末の対清教育思想—辻武雄の活動を中心に—」東北教育哲学教育史学会、東北大学、2017年9月
石井大輝、「明治期宮城県における教導職」東北教育哲学教育史学会、東北大学文科系総合研究棟1号館、2017年9月
浅沼千恵、「關於明治末期日本教習派遣之背景研究—『教育時論』掲載之記事為主要線索—」『浙江とアジア』国際シンポジウム、浙江工商大学、2017年10月【国際発表】
澤邊裕子、「外国にルーツを持つネイティブ日本語教師の言語学習と言語教育の意味：韓国語を学び、韓国で日本語を教える在日コリアン日本語教師のアイデンティティ研究から」言語文化教育研究学会、立命館大学、2018年3月
教育政策科学
神林寿幸、「研究報告—学校事務共同実施下の事務職員の勤務実態：佐賀・三重—」第38回佐賀県公立小中学校事務大会、佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター アバンセ、2016年5月
廣谷貴明、「財務データを活用した学校施設の運営経費の推計」学際高等研究教育院 Joint Workshop、東北大学片平さくらホール、2016年11月
神林寿幸、「勤務実態の国際比較から読み解く日本における教員のメンタルヘルス」日本学校メンタルヘルス学会第20回大会、一橋大学、2016年12月
神林寿幸、「『教職員の働き方と労働時間の実態に関する調査』調査結果の概要」連合総研シンポジウム「とりもどせ！教職員の『生活時間』」、ベルサール神保町、2017年1月
神林寿幸、「国際比較から読み解く日本の教員の業務負担」第14回スクールビジネス研究会シンポジウム、刈谷市中央生涯学習センター、2017年3月
廣谷貴明、「施設一体型小中一貫校設置の規定要因分析」日本教育行政学会、日本女子大学、2017年10月

呉書雅、「奨学金受給が学生支出行動に与える影響」日本教育社会学会、一橋大学、2017年10月

島一則・原田健太郎・西村君平・呉書雅・真鍋亮、「大学別期待生涯賃金の推計」日本教育社会学会、一橋大学、2017年10月

Takaaki HIROTANI, The Effect of School Consolidation on Local Finance, Taiwan-Japan Seminar on Educational Research, National Taiwan Normal University, 2018-1【国際会議】

Shuya WU, Kazunori SHIMA, Kentaro HARADA, Kumpei NISHIMURA, Ryo MANABE, Estimate of Expected Lifetime Earnings: Evidence from Mean and Variance of Four University in Japan, Taiwan-Japan Seminar on Educational Research, National Taiwan Normal University, Taipei, Taiwan, 2018-1【国際会議】

廣谷貴明、「地方財政が施設一体型小中一貫校の設置に及ぼす影響」東北大学大学院研修派遣に係る事前説明会、宮城県教育庁、2018年2月

Airi ITOU, The Proposal of Future Collaboration for Research Early Childhood Education System, Japan-Taiwan Seminar on Educational Research, Tohoku University, 2018-3【国際会議】

#### 成人継続教育論

中島康晴・追坂葉子・下雅意久美子、「ストレングスモデルの実践を通して生まれた家族と地域住民の意識と行動の変容—B P S Dの背景理解とストレングスを意図した実践の成果を検証する—」第16回日本認知症ケア学会、ホテルさっぽろ芸文館、2015年5月

中島康晴・甲山由美子・大原充敬、「認知症のある人の理解を地域に促進する方法—体験的学習を意図した地域への接近を検証する—」第16回日本認知症ケア学会、ホテルさっぽろ芸文館、2015年5月

中島康晴・中川裕介、「クライアントの地域活動を通じて生まれたクライアントと家族、地域住民の意識・行動変容の要因分析」日本ケアマネジメント学会第14回大会、パシフィコ横浜・会議センター、2015年6月

飯島絵理、「女性の学習と地域づくり—地域創生時代における『新しい男女共同参画学習』と女性関連施設の役割」日本社会教育学会、首都大学東京、2015年9月

崔敏奎、「高齢者の自主活動と地域づくり—『つるがや元気会』の事例を通して—」第7回日本社会教育学会・韓国平生教育学会学術交流研究大会、韓国・済州市、2015年10月【国際会議】

中島康晴・藤井忍・原田慎吾、「死の認識過程における支援を通じて生まれた本人の行動変容」日本認知症ケア学会、神戸国際展示場、2016年6月

中島康晴・高木英明・田中三千代、「本人が希望する場所での暮らしの支援を通じて『帰宅願望』の表出の変容を検証する—状況的学習論を意図したアプローチ—」日本認知症ケア学会、神戸国際展示場、2016年6月

中島康晴、「ソーシャルワークにおける社会変革の実践形態—暮らしたい場所で暮らし続ける権利を守る—」Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development 2016, 韓国ソウル COEX、2016年6月【国際会議】

MinGyu Choi, Community participation and Health promotion for senior citizens, The 3rd NFE Conference on Lifelong Learning Policy, Concept and Practice in Education, Bandung – Indonesia, 2016-9【国際会議】

飯島絵理、「女性のエンパワーメントと地域づくり—起業活動の事例をもとにした考察」日本社会教育学会、弘前大学、2016年9月

崔敏奎、「高齢者の自主活動グループへの参加と包摂のプロセス」第8回日本社会教育学会・韓国平生教育学会学術交流研究大会、日本・札幌市、2016年11月【国際会議】

崔敏奎、「高齢者の健康づくり活動における介護予防運動の自主グループへの参加を通じた意識・行動の変革プロセス—修正版グラウンドデットー・セオリー・アプローチ(M-GTA)による分析を通して—」日本社会教育学会第64回研究大会、埼玉、2017年9月

飯島絵理、「女性の起業と学習のプロセス—事例をもとにしたエンパワーメントと環境要因に関する考察」日本社会教育学会、埼玉大学、2017年9月

<p>中島康晴・藤丸忍・佐藤瑞枝、「家族のストレングスを役割に変えることによって変容した本人と家族の関係構造—バイオリンを通して母と娘のあらたな関係作り—」日本認知症ケア学会・中国・四国地域大会、サンポートホール高松、2018年1月</p> <p>中島康晴・高木英明・田中三千代、「本人が望む場所で本人らしく生活するための支援が生きる意欲に繋がる一領域を越境した支援が周囲に変化を起こす—」日本認知症ケア学会・中国・四国地域大会、サンポートホール高松、2018年1月</p> <p>中島康晴・馬越雅樹・綾谷孝子、「本人の強みに着眼し役割の演出をすることで、主体的に実感して貰う事の重要性—本人の言語化できないストレングスを援助活動の中で理解すること—」日本認知症ケア学会・中国・四国地域大会、サンポートホール高松、2018年1月</p>
<p><b>教授学習科学講座</b></p> <p>大家まゆみ、「対人関係における動機づけを考える」日本発達心理学会第27回大会自主シンポジウム、北海道大学、2016年4月</p> <p>Oie, M., Students' cooperative learning and creative solutions on permutation and combination in elementary school mathematics classrooms. The 31th International Congress of Psychology, パシフィコ横浜、2016-7【国際学会】</p> <p>大家まゆみ、「小中接続期の算数・数学の図表の活用に対する動機づけと問題解決方略の関係」日本教授学習心理学会第12回大会、山梨大学、2016年7月</p> <p>齋藤景、「歴史的事実の誤認識に関する検討」日本教授学習心理学会、仙台大学、2017年7月</p>
<p><b>人間発達臨床科学講座</b></p> <p>阿部美穂子・野手ゆかり、「主体的な子どもの姿を実現する保育実践における保育士の変容」日本保育学会第68回大会、椛山女子学園大学、2015年5月</p> <p>岩淵亜理紗、「ポジティブ心理学モデルに基づいたストレス対処：良いこと記述を用いた介入法の検討」東北心理学会、仙台、2015年6月</p> <p>手島啓文・安保英勇、「昔話と道徳性との関連についての心理学的研究」東北心理学会、仙台、2015年6月</p> <p>竹ヶ原靖子・安保英勇、「日常的コミュニケーションから予測する援助者のコスト」東北心理学会、仙台、2015年6月</p> <p>小山佳名子、「スポーツエリート中学生の進路決定に関する事例研究」東北心理学会第69回大会、東北文化学園大学、2015年6月</p> <p>八嶋玲央、「大学生のユーモアスタイルに関する検討—社会的スキル、友人関係満足との関連に着目して—」東北心理学会第69回大会、東北文化学園大学、2015年6月</p> <p>松崎泰・川住隆一・田中真理、「思春期・青年期自閉スペクトラム症者の共感の困難さに関する研究：恐怖を抱く他者への個人的苦痛の生起要因に着目して」日本発達障害学会第50回研究大会、東京学芸大学、2015年7月</p> <p>張新荷、「夫婦間葛藤に対する青年期の子どもの反応と心理的ストレス反応との関連—日本と中国の高校生を対象に—」日本家族心理学会第32回大会、山形大学、2015年7月</p> <p>兪幃蘭、「夫婦の葛藤解決方略に関する日韓比較—中年期女性の語りによる方略選択の意図に注目—」日本家族心理学会、山形、2015年7月</p> <p>赤間由依、「予備校生のストレスに関する臨床心理学的研究」日本ブリーフセラピー協会第7回学術会議、京都、2015年9月</p> <p>岩淵亜理紗、「ポジティブ心理学モデルに基づいたストレス対処：良いこと記述による特徴的側面への影響」日本ヒューマンケア心理学会、東京、2015年9月</p> <p>小林保子・阿部美穂子、「家族 QOL アセスメントに関する研究 報告4 日本版 BEACH CENTER FQOL Scale の検討」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月</p> <p>阿部美穂子・佐々木彩乃・谷津尚美・松本めぐみ・諏方智広・野口和人、「家族支援の視点から 障害のある子どものきょうだい支援を考える (4) — ライフステージに応じた支援：進路選択 —」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月</p> <p>阿部美穂子・佐々木彩乃、「重度・重複障害児・者のきょうだいの進路選択に関する研究」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月</p>

安井友康・青山眞二・齊藤真善・萩原拓・蔦森英史・小淵隆司・阿部美穂子・五十嵐靖夫・北村博幸・細谷一博・大山祐太・小野寺基史、「北海道における地域特性に応じた情報システムの構築発達障害の理解に関する人材育成に向けて」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月

永瀬開・野崎義和・李熙馥・広木純・松崎泰・鍋倉康平・川住隆一、「知的障害者・大学生共同参加型オープンカレッジの取り組み(1)―『杜のまなびや』における参加人数の推移と講義内容の内実―」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月

李熙馥・広木純・松崎泰・鍋倉康平・永瀬開・野崎義和・川住隆一、「知的障害者・大学生共同参加型オープンカレッジの取り組み(2)―『学ぶこと』と『大学』に関するイメージの変容に焦点づけて―」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月

松崎泰・鍋倉康平・永瀬開・李熙馥・野崎義和・広木純・川住隆一、「知的障害者・大学生共同参加型オープンカレッジの取り組み(3)―『杜のまなびや』参加前後の関心内容と討論への印象の関連―」日本特殊教育学会第53回大会、東北大学、2015年9月

永瀬開・田中真里・川住隆一、「自閉症スペクトラム障害者のユーモア体験における刺激の精緻化―刺激の精緻化で想起する事柄に注目して―」第79回日本心理学会、名古屋国際会議場、2015年9月

竹ヶ原靖子・安保英勇、「援助要請者が予測する援助者のコストは変容するか―友人への相談行動に着目して―」日本心理学会、名古屋、2015年9月

王晓、「過剰適応とストレスモデル諸要因との関連について―日中両国の中学生を対象として―」日本心理学会、名古屋、2015年9月

王晓、「中学生の過剰適応に関する日中比較―性差・学年差の検討」日本ヒューマンケア心理学会、東京、2015年9月

Yasuko Kobayashi, Mihoko Abe, Measuring Family Quality of Life of the Families Having Children with Disabilities in Japan, 2015 ISQOLS ANNUAL CONFERENCE, PHOENIX, AZ, USA, 2015-1月【国際会議】

Abe mihoko, Yasuko Kobayashi, Research Concerning Relationships between Siblings' Negative Feelings and Expectation of Support from Parents, 2015 ISQOLS ANNUAL CONFERENCE, PHOENIX, AZ, USA, 2015-10【国際会議】

王晓、「关于中国初中生过剩适应的探索性研究」中国心理学会、天津、2015年10月【中国国内学会】

張新荷、「夫婦間葛藤に対する青年期の子どもの反応の影響要因に関する日中比較研究」第18回全国心理学会学術会議(中国)、天津師範大学、2015年10月

岩淵亜理紗、「グローバル企業で活躍する日本人の実際：カリフォルニアでのインタビューから」現代行動科学会、盛岡、2015年11月

高木源、「SFBTワークシート―短期的効果の検討―」日本家族心理学会第32回大会、2015年

高木源・若島孔文・川原碧・関口溪人・長谷川啓三、「日本語版解決構築尺度の開発―信頼性と妥当性の検討―」第7回ブリーフセラピー協会学術会議、2015年

小林智、「家族コミュニケーションの相称性／相補性と家族構造、及び家族機能との関連」日本家族心理学会第32回大会、山形、2015年

小川舞美・藤川真由・大竹茜・岩城弘隆・中里信和・上埜高志、「ソーシャルワーカーのてんかんの知識と患者支援の現状」全国てんかんセンター協議会(JEPICA)、仙台国際センター、2016年1月

手島啓文、「道徳的態度尺度の開発と妥当性・信頼性の検討」東北心理学会第70回大会、コラッセ福島、2016年1月

山下葉子・阿部美穂子・千田恭子、「知的障害のある生徒の身体表現を育てる『音楽』の授業実践研究―動きと言葉の広がりを目指して―」日本児童学会平成27年度第2回学術集会、鎌倉女子大学、2016年3月

小川舞美・藤川真由・大竹茜・岩城弘隆・中里信和・上埜高志、「てんかん患者支援におけるソーシャルワーカーの視点と役割」全国てんかんリハビリテーション研究会、久留米大学、2016年4月

栗林睦美・阿部美穂子、「知的障害生徒の自立活動『身体の動き』『人間関係の形成』をねらいとしたムーブメント活動の実践」日本児童学会平成27年度第2回学術集会、

鎌倉女子大学、2016年3月

登坂如恵、「親子関係および友人関係の認知と青年期のジェンダーアイデンティティとの関連」第4回東北大学教育・発達・臨床心理研究会(RECEPT IV)、東北大学大学院教育学研究科、2016年3月

Takagi, G., The effects of key concepts of psychotherapy on mental health, The 31st International Congress of Psychology 2016, Yokohama, 2016【国際会議】

清水優、「ネガティブな思い出を肯定的に語り直すことで記憶の中に何が起きているのか？」日本ブリーフセラピー協会、同志社中学・高校、2015年9月

小川舞美、藤川真由、大竹茜、岩城弘隆、中里信和、上埜高志、「てんかん患者支援におけるソーシャルワーカーの視点と役割」第6回全国てんかんリハビリテーション研究会、久留米大学、2016年4月

登坂如恵、「親子関係および友人関係の認知と青年期のジェンダーアイデンティティとの関連」日本発達心理学会第27回大会、北海道大学、2016年5月

上田一気・東海林渉・長尾愛美・田島美幸・高橋葉子・阿部幹佳・松岡洋夫・大野裕・松本和紀、「被災地における『こころのエクササイズ研修』プログラムの有効性の検証：ランダム化比較試験のプロトコール」第15回日本トラウマティック・ストレス学会、仙台、2016年5月

Wataru Shoji., Development of instruments measuring diet-related behaviors and mutual dissatisfaction levels in Japanese couples with Type 2 diabetes, 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016-7【国際会議】

王晓, A Comparative Study of Relationship between Over-adaptation Tendency and Social Support in Japan and China, The 31st International Congress of Psychology (ICP2016), 横浜, 2016-7【国際会議】

田坂裕子・伊藤良子、「読み困難が認められた児童の小学1年生から4年生における算数文章題解決過程」日本発達障害学会第51回研究大会、京都教育大学、2016年8月

田坂裕子・伊藤啓子、「前言語期にとどまる知的障害幼児への個別音楽療法(3)―歌いかけによる相互交渉の変化―」日本音楽療法学会第16回学術大会、仙台国際センター、2016年9月

成田詩織・川住隆一・野口和人、「発達障害児・者の母親における Benefit finding (有益性発見)の過程」日本特殊教育学会第54回大会、新潟・朱鷺メッセ、2016年9月

太田光・野口和人、「きょうだいと同胞との関係性の変容―きょうだいの同胞に対する意識に着目して―」日本特殊教育学会第54回大会、新潟・朱鷺メッセ、2016年9月

林慎吾・白津祈恵子、「高校生の障害者に対する態度を可視化する―『FUMIE Test』は心のエクセス線となりうるか―」日本特殊教育学会第54回大会、新潟・メディアシップ、2016年9月

千葉崇弘・高木源・小林大介・小林千緩・坂本一真、「“ふだんづかい”のブリーフセラピー―誰でも使える『えびすでもろじー』―」第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会、福島、2016年10月

小林大介、「ブリーフセラピーの技法」東北心理学会、福島、2016年10月

高木源・若島孔文・小林大介、「不眠問題への解決志向短期療法―ホワイトボードを用いた解決に関する会話の導入―」日本家族心理学会第33回/日本交流分析学会第41回合同大会、松戸、2016年10月

八嶋玲央・加藤道代・千葉柊作、「対人的ユーモア表出の類型化の試み」第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会、福島市コラッセふくしま、2016年10月

田代万由子、「地域精神障害者家族会の機能と限界に関する研究」第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会、福島市コラッセふくしま、2016年10月

澁木悠、「障害児者を同胞に持つきょうだいの人生ときょうだいの抱える家族関係」第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会、福島市コラッセふくしま、2016年10月

奥山滋樹、「ヤングケアラー青年にみられる心理的側面の検討―同年代の青年との間での比較を通じて―」日本家族心理学会、千葉 聖徳大学、2016年10月

萩臺美紀・奥野雅子・若島孔文、「母親による父親イメージの伝え方に関する研究―構成主義的視点からの検討―」日本家族心理学会第33回大会・日本交流分析学会第41

回、聖徳大学、2016年10月

小林大介・斎藤昭宏・進藤果林・関口溪人、「未婚カップルの勢力関係と攻撃行動に関する研究—衡平性・情報量に着目して—」日本ブリーフセラピー協会、宇都宮、2016年11月

小林大介・斎藤昭宏・進藤果林・関口溪人、「未婚カップルの勢力関係と攻撃行動に関する研究」日本ブリーフセラピー協会第8回学術大会、栃木県総合文化センター、2016年11月

萩臺美紀・川原碧・坂本一真・斎藤昭宏・安藤樹・小林大介・清水優・高木源・小林智・三道なぎさ・平泉拓・若島孔文、「臨床心理士と弁護士の連携による自殺対策の試み—弁護士の法律相談業務における相談者自死ケースの実態把握—」日本ブリーフセラピー協会 第8回学術会議プログラム、栃木県総合文化センター、2016年11月

若島孔文・坂本一真・小林大介・高木源・安藤樹・赤間由依・清水優・秩父英里・萩臺美紀・川原碧・斎藤昭宏・関口溪人・進藤果林、「統合情報理論を家族研究に応用する試み(1)—夫婦を対象に—」日本ブリーフセラピー協会第8回学術会議プログラム、栃木県総合文化センター、2016年11月

坂本一真・小林大介・高木源・安藤樹・赤間由依・清水優・秩父英里・萩臺美紀・川原碧・斎藤昭宏・関口溪人・進藤果林・若島孔文、「統合情報理論を家族研究に応用する試み(2)—子ども視点から両親システムを検討する—」日本ブリーフセラピー協会第8回学術会議プログラム、栃木県総合文化センター、2016年11月

関口溪人、「家族儀式研究の展望とその課題」日本ブリーフセラピー協会第8回学術大会、栃木県総合文化センター、2016年11月

田坂裕子、「算数文章題解決に困難を示した児童への図を用いた指導の効果—算数文章題解決過程からの検討—」日本LD学会第25回大会、パシフィコ横浜、2016年11月

萩臺美紀・小林千緩・奥野雅子、「家族関係の変化をバランス理論から捉える試み」現代行動科学会誌、岩手大学、2016年11月

東海林渉・白倉瞳・伊藤恵子・松本和紀、「専門学校を対象とした一般教員へのコミュニケーション・スキルに着目したメンタルヘルス研修の試み」第20回日本精神保健・予防学会、東京、2016年11月

上田一気・東海林渉・白倉瞳・田島美幸・高橋葉子・阿部幹佳・松岡洋夫・大野裕・松本和紀、「被災地における『こころのエクササイズ研修』プログラムの有効性の検証：ランダム化比較試験」第16回日本認知療法学会学術集会、大阪、2016年11月

奥山滋樹・高木源・小林大介・坂本一真・若島孔文、「侵襲性尺度の開発の試み—信頼性・妥当性およびカットオフ値の検討」日本ブリーフセラピー協会学術会議、作新学院大学、2016年11月

萩臺美紀・川原碧・坂本一真・斎藤昭宏・安藤樹・小林大介・清水優・高木源・小林智・三道なぎさ・平泉拓・若島孔文、「臨床心理士と弁護士の連携による自殺対策の試み—弁護士の法律相談業務における相談者自死ケースの実態把握—」日本ブリーフセラピー協会第8回学術会議、栃木県総合文化センター、2016年11月

斎藤昭宏、「問題場面におけるカップルのコミュニケーションパターンと関係イメージの関連—相称的・相補的コミュニケーションに着目して—」日本ブリーフセラピー協会、栃木県総合文化センター、2016年11月

進藤果林、「中学生・高校生における受験に対するストレスに関する研究—ソーシャルサポートとポジティブ関係コーピングに関係して—」日本ブリーフセラピー協会第8回学術会議、2016年11月

Ogawa M, Fujikawa M, Iwaki H, Kitazawa Y, Kakisaka Y, Jin K, Ueno T, Nakasato N., Perceived epilepsy-related stigma in relation to seizure-related and psychosocial factors among adults with epilepsy, American Epilepsy Society 70th Annual Meeting, Texas, USA, 2016-12 【国際会議】

高木源、若島孔文、「心理療法の鍵概念と精神的健康のモデル化(II)」第8回ブリーフセラピー協会学術会議、栃木、2016年

小川舞美、藤川真由、岩城弘隆、北澤悠、柿坂庸介、神一敬、上埜高志、中里信和、「てんかんにおけるセルフスティグマの予測因子の検討」全国てんかんセンター協議会定期総会(JEPICA)、奈良春日野国際フォーラム薨I・RA・KA(奈良)、2017年2月

田坂裕子、「発達障害児小学1年から6年までの算数文章題の変化」日本発達心理学会第28回大会、広島大学、2017年3月

塚越友子、「思春期の内在化問題行動における母子相互作用の探索的研究」日本発達心理学会第29回大会、東北大学、2017年3月

横田桃、「高齢者の幸福な老いに影響する要因の検討」日本発達心理学会第28回大会、広島国際会議場、2017年3月

登坂如恵、「青年期における同性愛への態度に関する研究—ジェンダー・アイデンティティおよび同性愛についての知識に着目して—」日本発達心理学会第28回大会、広島国際会議場、2017年3月

西川真帆、藤川真由、岩城弘隆、柿坂庸介、北澤悠、神一敬、中里信和、上埜高志、「てんかん患者の就労の心理的要因」第8回全国てんかんリハビリテーション研究会、名古屋、2017年4月

千葉終作、「新たな因子を加えたPTG尺度の作成と、その信頼性と妥当性の検討」第16回日本トラウマティックストレス学会、東京武蔵野大学、2017年6月

Kobayashi, D., Development and Validation of Japanese version of Unwanted Pursuit Behavior Inventory-Revised (UPBI-R-J), International Conference: Crossroads of Couple and Family Psychology, Evanston, United States, 2017-6【国際会議】

Shigeki OKUYAMA, Case study of the “Young carers” woman who cared for grandparents of dementia in japan: Put a focus in subjective psychological process, International Academy of Family Psychology, Evanston, United States, 2017-6【国際会議】

長谷川素子・吉田沙蘭、「終末期における意思疎通がとりづらいがん患者と家族の望ましいコミュニケーションに関する研究—医療者の視点から—」日本緩和医療学会、横浜、2017年6月

田代万由子、「精神障害の親を持つ子どもの支援に関する文献検討」第13回東北心理学会、尚絅学院大学、2017年7月

須藤実璃、「青年が捉える過去の両親の夫婦関係認知と自己肯定感の関係」第13回東北心理学会、尚絅学院大学、2017年7月

Keiko Ito, Yuko Tasaka, Yuko Shirakawa, Naoko Matsumoto, Drumming for a pre-language period ASD girl to improve her social interaction, The 15th World Congress of Music Therapy, つくば国際会議場、2017-7【国際会議】

Sakamoto, K. & Wakashima, K., Grasping the messages of “Ijiri” pragmatically, International Conference: Crossroads of Couple and Family Psychology, Hilton-Orrington, Evanston, Illinois, USA. 2017-7【国際会議】

亀倉大地・安保英勇、「自己愛傾向とストレス反応の関連—自我脅威場面に着目して—」日本パーソナリティ心理学会、東北文教大学、2017年9月

遠藤徳美・田中圭介・安保英勇、「認知の柔軟性及び省察と自己複雑性との関連」日本パーソナリティ心理学会、東北文教大学、山形、2017年9月

千葉終作、「ネガティブな体験後のポジティブな変化と関連する要因の検討—自尊心、経過期間、価値観の揺るがされ方に着目して—」日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第19回大会、山梨大学、2017年9月

太田博己・吉川一義、「肢体不自由教育は進展したのか—自ら意識する運動と変化—」日本特殊教育学会第55回大会、名古屋国際会議場、2017年9月

坂本一真・関口溪人・萩臺美紀・川原碧・斎藤昭宏・進藤果林・青木千景・東明日香・今野華奈・二本松直人・高橋美瑞終・若島孔文、「海上保安庁向けハラスメント・チェックリスト作成の試み—『不快感』と『組織における許容度』からハラスメントを捉えなおす—」日本家族心理学会第34回大会、栃木、2017年9月

奥山滋樹・高木源・小林大介・生田倫子、「スクールカウンセリングにおける家族療法の活用に関して—臨床経験の浅い、“若手”の立場から—」日本家族心理学会、栃木、作新学院大学、2017年9月

二本松直人・奥野雅子・若島孔文、「自虐的ユーモアの応用可能性の検討—攻撃的発言への応答としての合気道ユーモアに着目して—」日本家族心理学会第34回大会、栃木、2017年9月

小林大介、「自死の危機介入と家族療法（初学者の視点から）」日本家族心理学会、宇都宮、2017年9月

斎藤昭宏・若島孔文、「日本語版 Family Problem Solving Scale の作成—信頼性・妥当性の検討—」日本家族心理学会、作新学院大学、2017年9月

萩臺美紀・若島孔文、「母親による子どもの父親像の構成に関する研究—マネジメントコミュニケーションに着目して—」日本家族心理学会第34回大会、作新学院大学、2017年9月

百瀬翔悟・八島猛、「脳性麻痺のある1生徒における数学科の自己調整学習支援」日本特殊教育学会第55回大会、名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）、2017年9月

坂本一真・小林大介・二本松直人・渡邊みどり・若島孔文、「DV問題を抱えるカップルへのアクティブ・ジェンダリング—『男性であること』『女性であること』をユーティライズする—」日本ブリーフセラピー協会第9回学術会議、福岡、2017年10月

東明日香・小林大介・高木源・川原碧・斎藤昭宏・坂本一真・進藤果林・関口溪人・萩臺美紀・青木千景・大友香奈・今野華奈・二本松直人・若島孔文、「セラピー技術向上のためのトレーニング開発の試み(1)—面接評価尺度の作成—」日本ブリーフセラピー協会第9回学術会議、福岡、2017年10月

東明日香・小林大介・高木源・川原碧・斎藤昭宏・坂本一真・進藤果林・関口溪人・萩臺美紀・青木千景・大友香奈・今野華奈・二本松直人・若島孔文、「セラピー技術向上のためのトレーニング開発の試み(2)—効果の測定と比較—」日本ブリーフセラピー協会第10回学術大会、福岡県立ももち文化センター、2017年10月

東明日香・小林大介・高木源・川原碧・斎藤昭宏・坂本一真・進藤果林・関口溪人・萩臺美紀・青木千景・大友香奈・今野華奈・二本松直人・若島孔文、「セラピー技術向上のためのトレーニング開発の試み(3)—内容の質的検討—」日本ブリーフセラピー協会第11回学術大会、福岡県立ももち文化センター、2017年10月

小林大介、「大学生における恋愛関係解消後の関係追求行動に関する研究」日本ブリーフセラピー協会、福岡、2017年10月

長谷川素子・吉田沙蘭、「意思疎通がとりづらい患者と家族のコミュニケーションに対する支援に関する研究」日本サイコオンコロジー学会、札幌、2017年10月

萩臺美紀・川原碧・高木源・若島孔文、「ブリーフセラピーによる家族ルールの変更—娘の夜尿症に悩む夫婦の事例から—」日本ブリーフセラピー協会第9回学術会議、福岡県立ももち文化センター、2017年10月

二本松直人・奥山滋樹・高木源・小林大介・坂本一真・若島孔文、「侵襲性尺度の作成—信頼性・妥当性、カットオフ値の再検討—」日本ブリーフセラピー協会第9回学術会議、福岡県立ももち文化センター、2017年10月

若島孔文・坂本一真・平泉拓・板倉憲政・生田倫子・佐藤宏平・花田里欧子、「統合情報理論を夫婦および家族に応用する試み—夫婦を対象とした調査から—」日本ブリーフセラピー協会第9回学術会議、福岡県立ももち文化センター、2017年10月

植田和・藤川真由・小川舞美・岩城弘隆・神一敬・上埜高志・中里信和、「てんかん患者における就労の関連因子：文献レビュー」第51回日本てんかん学会学術集会、京都、2017年11月

小川舞美・藤川真由・岩城弘隆・植田和・北澤悠・柿坂庸介・神一敬・上埜高志・中里信和、「日本語版 Epilepsy Stigma Scale の作成とその信頼性および妥当性の検討」第51回日本てんかん学会学術集会、京都、2017年11月

二本松直人・吉谷地康平・萩臺美紀・奥野雅子、「強い父親を構成するユーモア使用に関する理論的研究—家族療法的観点から—」現代行動科学会第34回大会、岩手大学、2017年11月

植田和・藤川真由・岩城弘隆・神一敬・小川舞美・上埜高志・中里信和、「てんかん患者における離職回数の要因」全国てんかんセンター協議会定期総会（JEPICA）、新潟、2018年2月

田坂裕子・伊藤良子、「同時処理に弱さがみられた早産児とASD児の算数文章題解決」日本発達心理学会第29回大会、東北大学、2018年3月

富田悠斗・安保英勇、「感謝の心理療法的介入の応用可能性について検討」東北心理学会、尚絅学院大学、2017年

富田悠斗・安保英勇、「感謝の心理療法的介入の応用可能性について検討—主観的幸福感、感情の変化、ストレス反応に着目して—」ヒューマンケア心理学会、山梨大学、2017年

藤村励子・野口和人、「かかわり手の不快な行動に対する肢体不自由者の意思表示の抑制に関わる背景要因」発達障害学会、群馬、2017年

横谷謙次・高木源・若島孔文、「バーチャルセラピストと人間セラピストとの差—精神疾患構造化面接の専門技術—」日本家族心理学会第34回大会プログラム・発表論文集、栃木、2017年

横谷謙次・高木源・若島孔文、「バーチャルセラピストと人間セラピストとの症状開示の差—匿名性からレポートか—」日本認知・行動療法学会第43回大会、新潟、2017年

高木源・千葉柗作・小林大介・若島孔文、「場面状況における適切な対処方略の検討」日本ブリーフセラピー協会第9回学術会議プログラム、福岡、2017年

Takagi, G., The effects of “well-formed goal” and “exception” questions developed by solution-focused brief therapy (SFBT): Aimed to develop SFBT worksheet, International Conference: Crossroads of Couple and Family Psychology, Chicago, June 2017 【国際会議】

#### 教育設計評価講座

池田和正、「高校理科教員の教科『情報』担当経験と指導方法との関係」日本理科教育学会65回全国大会、京都教育大学、2015年8月

齋藤貴弘、「実力テストとの相関から見る定期テストの妥当性—外的基準を用いた定期テスト妥当性の一考察—」日本数学教育学会、札幌南高等学校、2015年8月

Shigeru ASANUMA, Asami IBA, The Globalization Effect of Curriculum Development: The Fallacy Cases of Japan and Mongolia, JUSTEC2015, 米国ペンサコーラ, 2015-9 【国際会議】

劉莉、「孔子学院の発展過程に関する研究」東北教育学会、東北福祉大学、2016年3月

池田和正、「特別支援学校勤務経験の有無と授業改善への取組方法の特徴」第73回東北教育学会、東北福祉大学、2016年3月

山本佐江「形成的アセスメントの「字義通り(letter)」と「精神(spirit)」に橋をかける教師の学習」『日本教師教育学会』第26回研究大会於帝京大学：2016年9月

Sae Yamamoto and Masahiro Arimoto, "Teachers' learning that bridge the gap between the 'letter' and the 'spirit' of assessment practices", Research and Innovation in Classroom Assessment conference: Learning Science Institute Australia: Australian Catholic University in Brisbane: Sep. 2016 【国際会議】

山本佐江「At risk 児の『参加』を促進する入門期算数授業—形成的フィードバックによる学習調整」『日本学校心理士会』2016年度大会於東京成徳大学：2016年12月

Masahiro Arimoto, Janet Loony, Shin Hamada, Sae Yamamoto, Shigeki Kitajima, “ Cultural aspect of school-wide assessment and pedagogy-a follow-up atudy of teaching gap” The World Association of Lesson Study 2017 Symposium 於名古屋大学: Nov.2017 【国際会議】

Sae Yamamoto and Shin Hamada "The schools' network to promote professional development: The creation of mathematical and historical collaborative curriculum: 'Oedo Story'", The World Associatuin of Lesson Study 2017 於名古屋大学: Nov.2017 【国際会議】

#### 4. 外部予算獲得・採用状況

##### (1) 日本学術振興会特別研究員

日本学術振興会特別研究員の本研究科大学院生における応募者および採用率については、以下の表の通りである。

日本学術振興会特別研究員応募者および採用率 (単位:人)

応募資格		年度	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
		RPD	応募者数	0	0
	採用者数	0	0	0	
	採用率	0%	0%	0%	
PD	応募者数	2	1	3	
	採用者数	0	0	0	
	採用率	0%	0%	0%	
DC1	応募者数	3	3	6	
	採用者数	1	0	0	
	採用率	33%	0%	0%	
DC2	応募者数	11	3	3	
	採用者数	2	0	0	
	採用率	18%	0%	0%	
計	応募者数	16	7	13	
	採用者数	3	0	0	
	採用率	19%	0%	0%	
新規・継続合計	採用人数	6	3	0	

##### (2) 国際高等研究教育院

東北大学国際高等研究教育院は、既存の研究科・教育部の枠にとらわれず、新しいタイプの異分野融合からなる新領域の学際的研究を創造し世界トップレベルの研究者を目指そうとする若手研究者養成のための支援組織である。

国際高等研究教育院の支援を受けるためには、博士前期課程1年次に指定の単位を修得、所定の成績を修めた上で、審査に合格することが必要となる。合格すると前期課程2年次に「修士研究教育院生」として奨学金の支給、論文投稿諸費用、国際会議出席費用等の各種支援を受けることができる。

また、「修士研究教育院生」であった学生あるいはそれ以外でとくに成績が優秀な博士課

程後期3年の課程1年次から「博士研究教育院生」が選抜され、上記支援のほか、研究計画に見合った研究費や研究環境または国際インターンシップのための助成等を受けることができる。

2015、2016、2017年度における教育学研究科の修士・博士研究教育院生は以下のとおりである。

#### 修士・博士研究教育院生数

	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
修士研究教育院生	0人	1人	0人
博士研究教育院生	0人	0人	1人

### (3) 外部予算の獲得状況

#### 【獲得した主な研究費】

講座	氏名	名称	研究課題名	助成団体名	助成期間	金額(千円)
教育政策 科学講座	神林寿幸	科学研究研究費 (特別研究員奨励費)	教員の勤務負担の歴史的起源 —日米英独の教員の労働法制度の 成立過程に着目して—	日本学術振興会	2014年4月～ 2017年3月	2,800
人間発達 臨床科学 講座	東海林涉	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手(B) 26870673	糖尿病の診断と食事療法がもたら す夫婦システムの変遷過程の解明 と支援ツールの開発	日本学術振興会	2014年4月～ 2017年3月	H28年度 910 (全期間 3,770)
教育政策 科学講座	神林寿幸	博士研究教育院生奨学金	公立小・中学校教員業務の特徴と 長時間労働の規定要因—日米英独 の教員労働法制度の発展に着目して —	学際高等研究教育院	2014年7月～ 2017年3月	1,700
人間発達 臨床科学 講座	吉川一義	科学研究費補助金 基盤研究(C)	脳性麻痺児の「個にとっての意 味」を重視したライフ・ベース ト・サポートモデルの構築	日本学術振興会	2015年～ 2017年	2,300
人間発達 臨床科学 講座	八島猛	科学研究費補助金 基盤研究(C)	健康障害児における自尊感情の発 達と支援プログラムの検討	文部科学省	2015年～ 2017年	2,340
人間形成 論講座	澤邊裕子	日本学術振興会科学研究費 補助金基盤研究(C)	日本と韓国の中等教育機関におけ る隣国語教育の意味と課題に関す る研究	日本学術振興会	2015年～ 2017年	2,990
教育政策 科学講座	廣谷貴明	修士研究教育院生奨学金	学校統廃合による地方財政への効果	学生高等研究教育院	2016年7月～ 2017年3月	100
教育政策 科学講座	呉書雅	平成30年度学生支援の推進に 資する調査研究事業 (JASSOリサーチ)	日本学生支援機構貸与型奨学金受 給が学生の収入・生活費・生活時 間に与える影響に関する実証的研 究—傾向スコア・マッチングによ る検証—	独立行政法人 日本学生支援機構	2017年度～ 2018年度	300
人間発達 臨床科学 講座	高木源	学際高等研究教育院 教育院生	解決志向短期療法に基づくセルフ ヘルプ・ツールの開発	東北大学 学際高等研究教育院	2017年4月～ 2020年3月	各年 1320

## 5. 大学院生の受賞

### (1) 受賞・特筆すべき業績状況

#### 【受賞・特筆すべき業績】

講座	受賞者・受賞グループ名	受賞学術賞名	授与機関	受賞内容	受賞年月日	賞の種別	国内・国外
人間発達臨床科学講座	高木源	日本ブリーフセラピー協会奨励賞	日本ブリーフセラピー協会	これまでの研究業績に対して	2016年		国内
人間発達臨床科学講座	児玉文音	トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム	官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～	第7期 多様性人材コース	2017年8月1日	その他の賞	国内
人間発達臨床科学講座	小林大介	奨励賞	日本ブリーフセラピー協会	ブリーフセラピーおよびその隣接諸学に関して優れた論文を執筆した若手研究者	2017年10月1日	学会賞	国内

※種別 国際的学術賞、国内・国際学会・会議・シンポジウム等の賞、学会誌・学術雑誌による顕彰、出版社・新聞社・財団等の賞、その他の賞

### (2) 総長賞・研究科長賞

毎年、学士課程修了者、修士課程修了者および博士学位取得者を対象に、総長賞・研究科長賞候補者選考委員会において受賞者を決定し表彰を行っている。

2015、2016、2017年度の総長賞・研究科長賞の受賞者一覧は以下のとおりである。

#### 総長賞・研究科長受賞者一覧

	院生氏名	コース	論文タイトル
2015年度（平成27年度）			
総長賞	永瀬 開	人間発達研究コース	自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験に関する研究
研究科長賞	池田 岳大	教育政策科学研究コース	女性の世代内キャリア移動の趨勢－キャリアトラックのパラドックス－
2016年度（平成28年度）			
総長賞	神林 寿幸	教育政策科学研究コース	公立小・中学校教員業務負担の規定要因
研究科長賞	高木 源	臨床心理研究コース	目標の明確化および例外探しの効果の検討－効果的な解決志向短期療法に基づく心理的支援ツールの開発を目指して－
2017年度（平成28年度）			
総長賞	盛下 真優子	人間形成論研究コース	マックス・シェラーの教育哲学的研究－「調和と人間形成」の問題を中心に－
研究科長賞	坂本 一真	臨床心理研究コース	「いじり」のプロセスの検討及びメッセージ・メタメッセージに着目した類型化

## 6. 大学院教育の特徴と課題

### (1) 学位授与率

年度	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度
基礎数	36人	36人	38人
修士号授与件数	30件	32件	37件
修士号授与率	83%	89%	97%
基礎数	46人	38人	28人
課程博士授与件数	15件	14件	4件
課程博士授与率	33%	37%	14%
論文博士授与件数	2件	1件	なし

修士号授与率については比較的高い状態で安定している一方で、課程博士授与率については必ずしも高水準とは言えず、年によるばらつきも大きい。

博士課程前期における教育、研究指導に関しては、現在の教育、研究指導體制を着実に維持、充実させていくことが必要である。また、博士課程後期における教育授与、研究指導については、授与率の向上につながる改善なされる必要がある。これまでも、特定研究Ⅰ・特定研究Ⅱの修得および博士論文執筆計画書の提出を義務付けて博士論文執筆資格審査を行うなど、博士論文執筆までのプロセスに寄り添った指導體制を構築してきたほか、「博士論文点検委員」の設置など、論文審査のサポート体制の充実も図っている。こうした取り組みにも関わらず博士学位の授与率が十分に向上していないことを踏まえ、指導體制を再検討する必要がある。

課程博士(教育学)の学位授与者および論文題目一覧

2015年度(平成27年度)		
専攻	氏名	博士論文題目
総合教育科学専攻	平泉 拓	家族構造と介護者のストレスに関する臨床心理学的研究 ー家族バランス仮説の応用ー
総合教育科学専攻	宮曾根 美香	日本人初級英語学習者の英語の音韻符号化に関する研究 ー音韻認識と書記素-音素変換規則の関係からー
総合教育科学専攻	申 育誠	日本統治時代の台湾初等教育における同化教育の研究
総合教育科学専攻	浅井 継悟	青年期の過剰適応に関する臨床心理学的研究 ー過剰適応の構造と対人的要因からの検討ー
総合教育科学専攻	斉藤 雅洋	地域づくりにおける協働形成に関する社会教育学的研究 ー岩手県紫波町の事例からー
総合教育科学専攻	坪田 光平	外国人非集住地域におけるフィリピン系ニューカマー ーエスニック・コミュニティ形成と多文化教育実践のエスノグラフィーー
総合教育科学専攻	三道 なぎさ	抑うつ者を含む重要な二者関係における葛藤的コミュニケーションに関する臨床心理学的研究 ー言語コミュニケーションに着目してー
総合教育科学専攻	苦米地 なつ帆	きょうだい構成による社会移動機会格差とその意味の変容
総合教育科学専攻	濱本 真一	教育達成過程における階層差生成のダイナミクス ー選抜制度と不平等に関する計量・シミュレーションアプローチー
総合教育科学専攻	渡邊 祐子	美術館の教育的役割に関する理論的研究
総合教育科学専攻	阿部 美穂子	障害のある子どものきょうだい支援プログラム開発に関する実践的研究 ー家族関係に着目してー
総合教育科学専攻	永瀬 開	自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験に関する研究
総合教育科学専攻	竹ヶ原 靖子	相談行動の抑制因に関する心理学的研究 ー援助要請者が予測する援助者のコストに着目してー
総合教育科学専攻	張 新荷	夫婦間顕在的葛藤が青年期の子どもの精神的健康に及ぼす影響に関する研究 ー日本と中国の比較を通してー
教育設計評価専攻	山本 佐江	教室アセスメントにおける形式的フィードバックの機能

2016年度（平成28年度）		
専攻	氏名	博士論文題目
総合教育科学専攻	南 紅玉	国際結婚した女性の社会参加における主体性と学習
教育設計評価専攻	高橋 春菜	イタリア・ボローニャにおけるインターカルチュラル教育の地域展開 ―変容する制度のなかで受け継がれる営み―
総合教育科学専攻	松川 春樹	聴覚投映法に関する臨床心理学的研究 ―その開発と応用―
総合教育科学専攻	菅藤 健一	非行臨床における風景構成法に関する臨床心理学的研究
総合教育科学専攻	佐藤 悦子	ブラジル日系社会における人間形成と宗教実践に関する民族誌的研究
総合教育科学専攻	野口 修司	家族関係における社会的勢力と安定性に関する臨床心理学的研究
総合教育科学専攻	佐藤 修哉	メンタルヘルス・リテラシー向上のための心理学的研究 ―青年期を対象として―
総合教育科学専攻	松崎 泰	ネガティブ状況における青年期自閉スペクトラム症者の感情生起に関する研究 ―自己注視的・他者注視的認知処理と自己概念の視点から―
総合教育科学専攻	一條 玲香	結婚移住女性のメンタルヘルスと異文化適応に関する臨床心理学的研究
総合教育科学専攻	兪 幟蘭	中年期女性の夫婦間葛藤プロセスに関する研究 ―日本と韓国の比較を通して―
総合教育科学専攻	寺川 直樹	ヘルダーの人間形成論 ―その人間観・宗教観・自然観に定位して―
総合教育科学専攻	神林 寿幸	公立小・中学校教員業務負担の規定要因
総合教育科学専攻	王 暁	中学生の過剰適応に関する日中比較研究
教育設計評価専攻	頼 羿廷	日本における教職員人事評価制度に関する研究 ―成果主義に基づく評価制度の地方受容を中心に―

2017年度（平成29年度）		
専攻	氏名	博士論文題目
総合教育科学専攻	盛下 真優子	マックス・シェーラーの教育哲学的研究 ―「調和と人間形成」の問題を中心に―
総合教育科学専攻	澤邊 裕子	隣国の言語の教育と人間形成に関する研究 ―日本と韓国における言語教師を事例として―
総合教育科学専攻	吉川 一義	重症心身障害児の応答性促進に関する発達援助 ―初期発達におけるリーチングの機能に着目して―
総合教育科学専攻	鈴木 学	日本の高等教育における学生参画型支援プログラムの「質保証」体制構築に関する実践的研究 ―学習支援の取組みに焦点を当てて―

(1) 大学院学生出口の推移  
前期課程修了者の就職状況

(単位:人)

就職先	年度	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
他国立、公立大学教員 (短期大学含む)		0	0	0
私立大学教員 (短期大学含む)		0	0	1
高等学校教員		2	2	2
各種学校教員		3	2	3
国公立機関の職員		9	7	7
民間企業団体等		4	6	12
帰国(留学生)		0	3	1
その他		10	6	1
合計		28	26	27

前期課程修了者の後期課程への進学状況

(単位:人)

年度	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
修了者数	30	32	37
進学者数	2	6	12
内本研究科	1	5	11
内他大学院	1	1	1
進学率	6.7%	18.8%	32.4%

前期課程修了者の主な就職先

<b>2015年度(平成27年度)</b>
・宮城県高等学校教員 ・神奈川県中学校教員 ・千葉県特別支援学校教員
・法務省矯正局 ・宇都宮保護観察所 ・エムアールアイリサーチアソシエイツ
<b>2016年度(平成28年度)</b>
・東京家庭裁判所 ・宮城県高等学校教員 ・宮城県庁 ・日本スポーツ振興センター
・日本IBM ・LITALICO ・仙台赤十字病院 ・ガスパル
<b>2017年度(平成29年度)</b>
・宮城県高等学校教員 ・教職員支援機構 ・国立青少年教育振興機構 ・日経リサーチ
・茨城県立こども病院 ・東北学院 ・アドバンテッジリスクマネジメント

## 後期課程修了者の就職状況

(単位:人)

就職先 \ 年度	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
本学(教育研究支援者含む)	1	8	0
学術振興会特別研究員	1	1	0
他国立、公立大学教員 (短期大学含む)	5	0	2
私立大学教員 (短期大学含む)	3	1	2
高等学校教員	0	0	0
各種学校教員	0	0	0
国公私立機関の職員	3	3	0
民間企業団体等	0	0	0
帰国(留学生)	1	0	0
その他	1	1	0
合計	15	14	4

## 後期課程修了者の主な就職先

2015年度(平成27年度)
・東京大学教員 ・北海道教育大学教員 ・山口県立大学教員
・帝京平成大学教員 ・日本学術振興会特別研究員 ・東北大学博士研究員
2016年度(平成28年度)
・東北大学教員 ・盛岡大学教員 ・福島少年鑑別所 ・石巻市役所
・日本学術振興会特別研究員 ・東北大学博士研究員
2017年度(平成29年度)
・福島大学教員 ・金沢大学教員 ・宮城学院女子大学教員
・東北生活文化大学短期大学部教員

前期課程修了者の進路は従来と同様、多岐にわたっているが、国公私立機関の職員や民間企業団体等および進学が全体の過半数を占めている。また、後期課程修了者の進路についても、そのほとんどが大学等、研究機関となっている。こうした進路状況は、前期課程、後期課程いずれの修了者についても、本研究科において習得した専門的知識や技能を活用して実社会で活躍していることを示している。